

朝日新聞 2010(平成22)年7月1日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

# ぶらり ミュージアム

## 県立博物館

堂々たる花器を愛らしい花台が支えているこの写真は、池坊の華道家「春陽館 籬蝶」、古賀長太夫(1846～1919)の創作した立花を記録したもので、金属製の花器と蒔絵の花台、下に敷かれた鍋島緞通の三つの工芸品がアート空間を完成させています。

工芸品は取り合わせ、組み合わせの芸術だと痛感したのは、先日拝見した唐津市の旧高取邸土蔵ギャラリーの展示「高取邸一さつきの茶会」、初夏の宗徧流

## 取り合わせが生むたたずまい

「梅花散文蒔絵花台」

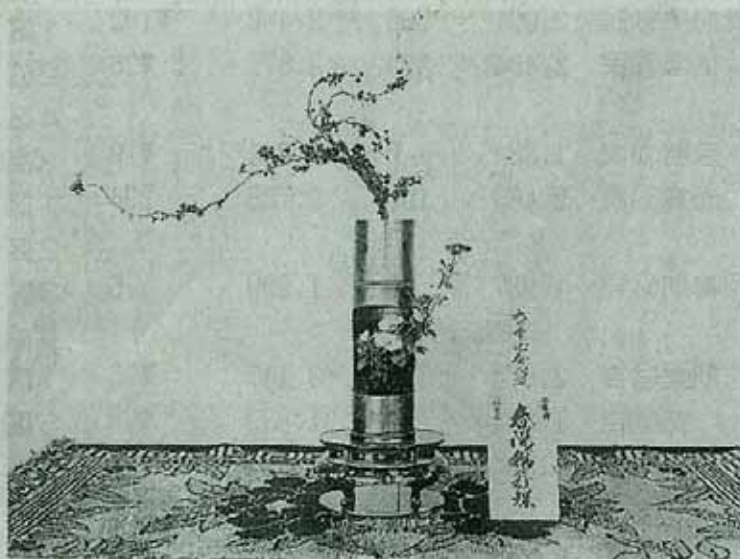
茶会のためのセレクトは、凜として静かなたたずまいが印象的でした。

博物館や美術館での展示は、人々から愛され使われていたものたちを残し、次の世代へ伝えるメッセージの役割がありますが、「どのように使われていたか」を見ていただく機会がなかなかないのが残念。この画面から華道家の繊細な感覚と構成の力強さを感じとってください。

花台は、県立博物館のテーマ展示「漆の美」(19日まで)で展示中。

(県立博物館・美術館)  
学芸員 宮原香苗

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。月曜(祝日なら翌日)休館。



江戸時代/19世紀/木製・蒔絵/径24  
・3×29センチ/高さ15・1センチ/県立博物館  
蔵/個人寄贈